

事業名	商工振興事業
-----	--------

総事業費	2,598 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	商工業の振興
	基本事業名	地場産品の振興

② 実施 (Do)

事業の意図		販路開拓を支援する
事業の実績 と 成果	取組内容	商工業の振興に係る新規販路構築、販売促進、商談、特産品等のPR、セミナー等開催、商談会参加、各種出張等 市内事業者や関係団体と連携して事業を実施。
	成 果	物産展等参加 4回 物産展等参加団体 7団体 商談会参加事業者 3者 セミナー 1件 「首都圏及びふるさと納税で選ばれる商品になるためのセミナー」(2月8日 西之表市役所) 商談会での成約件数 2件(現在、商談中案件2件)

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	・イベントへの出展する事業者が固定されており、さまざまな事業者がイベントに参加することによって島外のニーズを把握するなどの意識醸成が必要である。 ・イベントへの参加は人的不足や経費面からも難しいとの意見もあることから、情報発信としてさまざまな媒体での広報が必要である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	市内商工業を取り巻く状況が厳しさを増す中、島外市場の開拓向けの新規販路構築、販売促進、商談、特産品等のPR、セミナー等開催し、事業者の支援に取り組んだ。本年度は首都圏だけでなく、大阪や福岡等でイベントを行い消費者の動向を把握することができた。一方で、島外イベントに参加する事業者も限られてきていることから、様々な媒体を通じて継続的な情報発信や商談に繋がるよう、新たな事業見直しを行い、時代の変化に応じた効果的な活動に繋げたい。

④ 改善 (Action)

2020年度方向性	令和元年度事業終了
-----------	-----------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	イベントの様子

事業名	アンテナショップPR事業
-----	--------------

総事業費	6,006 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	商工業の振興
	基本事業名	地場産品の振興

② 実施 (Do)

事業の意図		①特産品を知ってもらう ②売上増
事業の実績 と 成果	取組内容	ブース借用、特産品協会との連携による出品、イベント開催、パンフレットの送付等
	成 果	施設主催のイベント参加 1回 本市開催イベント 1回 首都圏での特産品の販路開拓として取り組んだが、商品によってはファンを獲得し、複数個の購入等につながっている。また、浅草で選ばれている商品についてもセミナー等を実施し、今後への取組にもつなげることができたのではないかと考える。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	新型コロナウイルス感染症の影響によって、利用者が減少しており、今後は休業や次年度のイベント開催ができるかが心配される。 次年度11月をもって施設での取組が終了することから、それ以降の展開を検討する必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	2020年の東京オリンピック開催を契機として観光客の誘致や特産品の販路拡大を目的に、東京浅草の「まるごとにつぼん」において、通年でアンテナブースを設置し、情報発信やPR活動を行った。施設運営側から毎月取り扱い商品の販売状況や商品に対する様々な提案を頂くことで、首都圏での評価が直接販売事業者へ還元されるようになり、本事業に対する事業者の期待も高まっている。「まるごとにつぼん」については、令和2年11月末で営業が終了することになっており、新型コロナウイルスの影響も注視しながら、今後に向けた事業の在り方について検討したい。

④ 改善 (Action)

2020年度方向性	2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックの開催を見込み、首都圏での販路開拓のため、アンテナブースを設置したが、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛によって施設が閉館されるなどの措置がされており、今後の展開が心配される。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	本市ブース写真

事業名	産業間連携推進事業
-----	-----------

総事業費	3,105 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	商工業の振興
	基本事業名	地場産品の振興

② 実施 (Do)

事業の意図		①協同事業を実施する ②運営する ③推進する
事業の実績 と 成果	取組内容	総会、運営委員会の開催、商談会・物産展への参加を実施した。 中学生及び高校生が参加するワークショップの開催を行った。 人材育成については、中学生の派遣を初めて実施し、全国の中学生との交流を行った。高校については、佐渡高校との交流等を実施し、自分たちの種子島への提言を作成していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、途中で中止となっている。
	成 果	・アンテナショップでの種子島の観光・物産展の開催 ・ワーキンググループの開催（計 1回） ・にしのおもて未来ワークショップの開催 ・東京大学体験活動プログラムにより6名の学生を受け入れ。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	・ブランド力向上のための種子島デザインの普及促進に取組む必要がある。 ・各産業での担い手不足等が課題となっており、その解決に向けて取組む必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、シンポジウム等が開催できなかった。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	各産業間の横断的な連携を図り、総合的な産業振興と地域ブランドの向上を目指した取組みの中で、今年度も計画に基づき、東京都内で観光物産展等を開催、首都圏に向けた販売促進等を行った。併せて地域ブランドの向上をPRするための「たねがしまる」、各イベントごとに統一したロゴマークやのぼり旗を使用して普及を図った。一方、大学等と連携し毎年3月に開催しているシンポジウムについては、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止となったが、学術的な研究活動と産業振興を関連させながら発展的に事業を見直し、次年度に繋げた。

④ 改善 (Action)

2020年度方向性	令和元年度事業終了
-----------	-----------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	各種団体とのイベントの様子